

横浜教育ビジョン

**横浜市立高等学校
改革推進プログラム**

～平成18年度から平成22年度までの5か年計画～

平成19年1月

横浜市教育委員会

【 目 次 】

第 1 章 横浜市立高等学校改革推進プログラムとは	・ ・ ・ 1 P
I 策定の趣旨	
II 横浜市立高等学校改革推進プログラムの位置づけ	
第 2 章 横浜市立高校の現状と課題	・ ・ ・ 2 P
I 高校教育を取り巻く社会状況の変化	
II 横浜市立高校の現状と課題	
第 3 章 横浜市立高校は変わります	・ ・ ・ 4 P
I 横浜市立高校生を育てるための目標	
II 横浜市立高校の目指す方向性	
III 各高校の果たす使命	
IV 各高校の今後5か年の学校目標	
V 科学技術高等学校（仮称）の整備推進	
第 4 章 横浜市立高校全体が取り組む目標	・ ・ ・ 14 P
第 5 章 目標を実現するための具体的方策	・ ・ ・ 16 P
I 横浜市立高校版学習指導要領の策定	
II 横浜市立高校の一体的な運営の推進	
III 大学等との連携・接続の強化	
IV 教育ネットワークの強化	
V 学校運営の改革	
VI 学校支援体制の拡充	

【参考】 横浜市立高校の概要

第1章 横浜市立高等学校改革推進プログラムとは

I 策定の趣旨

横浜市教育委員会では、～「教育のまち・横浜」の実現を目指す10年構想～として「横浜教育ビジョン」を平成18年10月に策定しました。

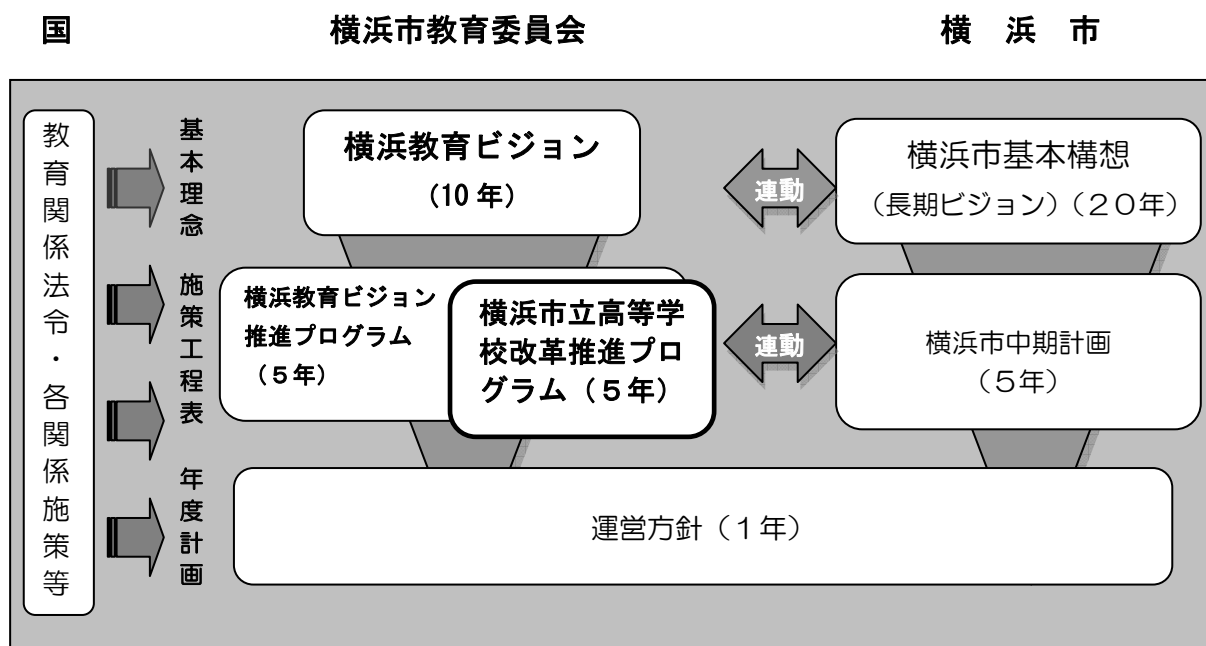
「横浜教育ビジョン推進プログラム」及び高校版の実施計画である「横浜市立高等学校改革推進プログラム」は、「横浜教育ビジョン」の実現に向け、最初の5か年（平成18年度から平成22年度まで）の教育施策の工程表をとりまとめたものです。

策定後には、本プログラムを基礎としながら、毎年度の運営方針の中で、具体的な事業推進を図っていきます。

II 横浜市立高等学校改革推進プログラムの位置づけ

横浜市の教育に関する計画は、「横浜教育ビジョン（10年）」、「横浜教育ビジョン推進プログラム（5年）」及び「横浜市立高等学校改革推進プログラム（5年）」、「運営方針（1年）」の3つの層で構成されています。この3つについては、それぞれ本市計画と連動しています。（運営方針については一致しています。）

また、「横浜市立高等学校改革推進プログラム」は、「横浜市立高等学校再編整備計画（平成12年策定）」に代わる新たな計画として策定し、推進していくものです。

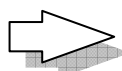


第2章 横浜市立高校の現状と課題

I 高校教育を取り巻く社会状況の変化

社会状況や生徒数の変化などに伴い、高校教育に求められるものも変わってきています。横浜市立高校へは市立中学校の卒業生の10.8%が入学していますが、その中で生徒・保護者のニーズに応え、信頼される高校教育を行っていく必要があります。

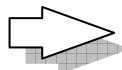
- ◆生徒数急増期（昭和40年代～63年）
 - 日本経済の成長・拡大、人口増加
 - 高校への進学率が90%を超える（昭和49年）



◎高校の新設が求められる

- * 高校百校新設計画（神奈川県：昭和48年度～62年度）など

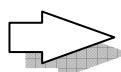
- ◆生徒数急減期（平成元年～18年）
 - バブル経済崩壊から安定成長へ
 - 少子高齢化、グローバル化などの進展
 - 高校卒業者の就職率が20%を切る（平成12年）



◎高校の多様性や再編統合が求められる

- * 単位制高校の設置（平成5年～）
- * 総合学科高校の設置（平成6年～）
- * 横浜市立高等学校再編整備計画（平成12年度）など

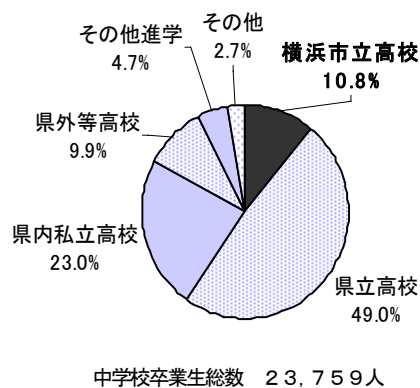
- ◆生徒数平準期（平成19年～）
 - 成熟型社会へ
 - 大学等への進学率の向上
 - 学校生活の満足度や授業の理解度が低下
 - いじめ、不登校などの課題



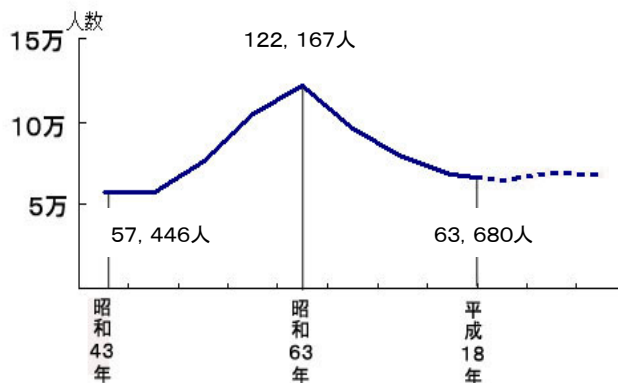
◎高校教育の質の向上が求められる

- * 生涯にわたり学び続ける力、豊かな人間関係を築く力、幅広く高い学力の育成の必要性

<市立中学校卒業者の進路先（18年3月）>



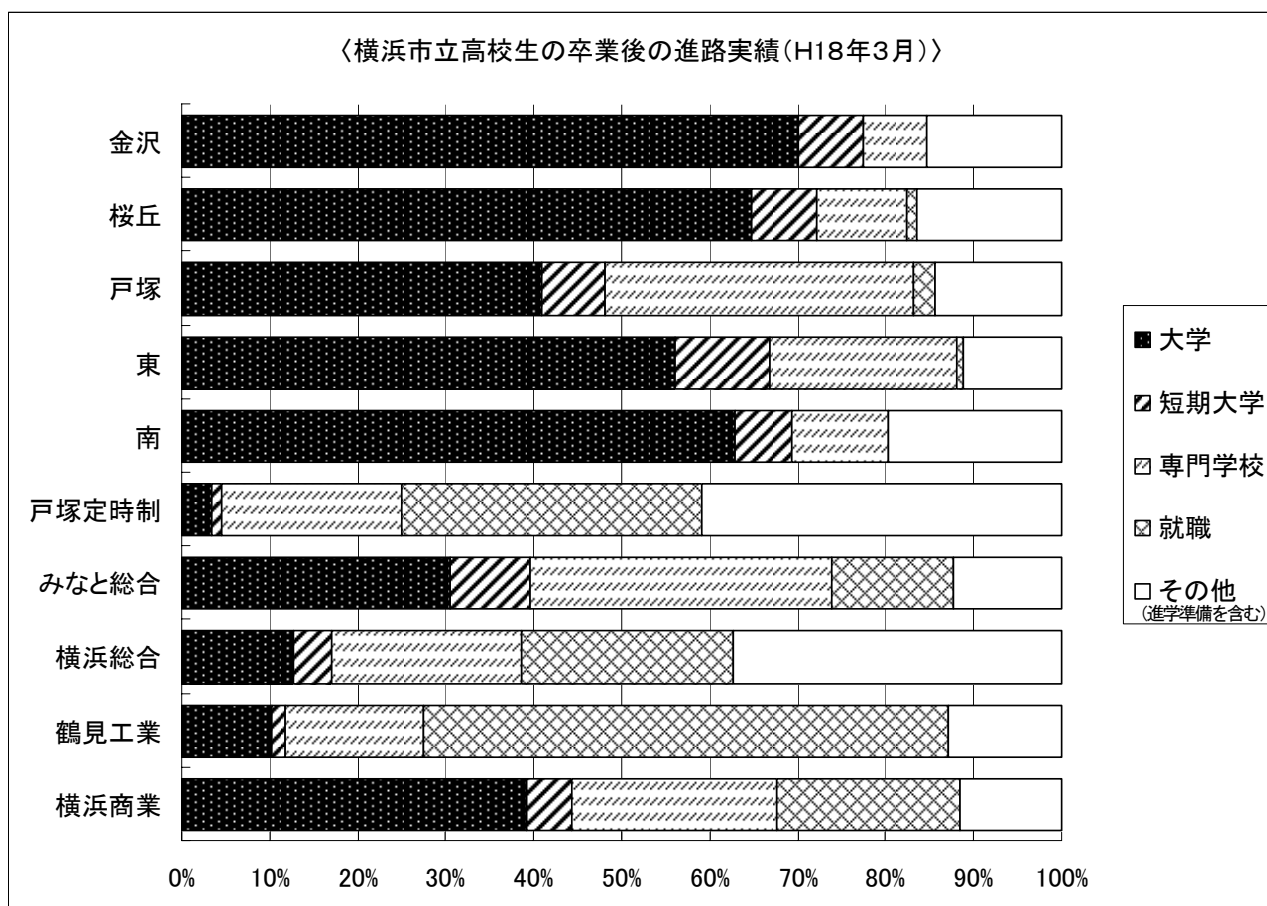
<県内公立中学校卒業生数の推移>



II 横浜市立高校の現状と課題

横浜市立高校では、普通科、専門学科、総合学科や定時制など、9校10課程の学校を設置しています。各高校ではそれぞれの特質にしたがって学校運営を行っていますが、様々な課題の解決が必要です。

- 様々な推薦入試による大学への進学者が増える一方、国公立大学の進学者は少ない。生徒の可能性を拡大し、適性に応じた進路指導の充実が望まれる。
- 部活動をはじめ学校行事に積極的に取り組んでいる学校も多く、生徒・保護者の学校生活に対する満足度は高いものの、生徒からは授業内容に対する多様な要望がある。
- 市立学校のネットワークの活用や企業・大学等との連携が十分ではなく、小学校から大学までを設置し、多くの企業等が立地する横浜市のメリットが活かされていない。
- 横浜市立高校の教育を評価し、継続的、組織的に教育改革を進める仕組みが確立されていない。

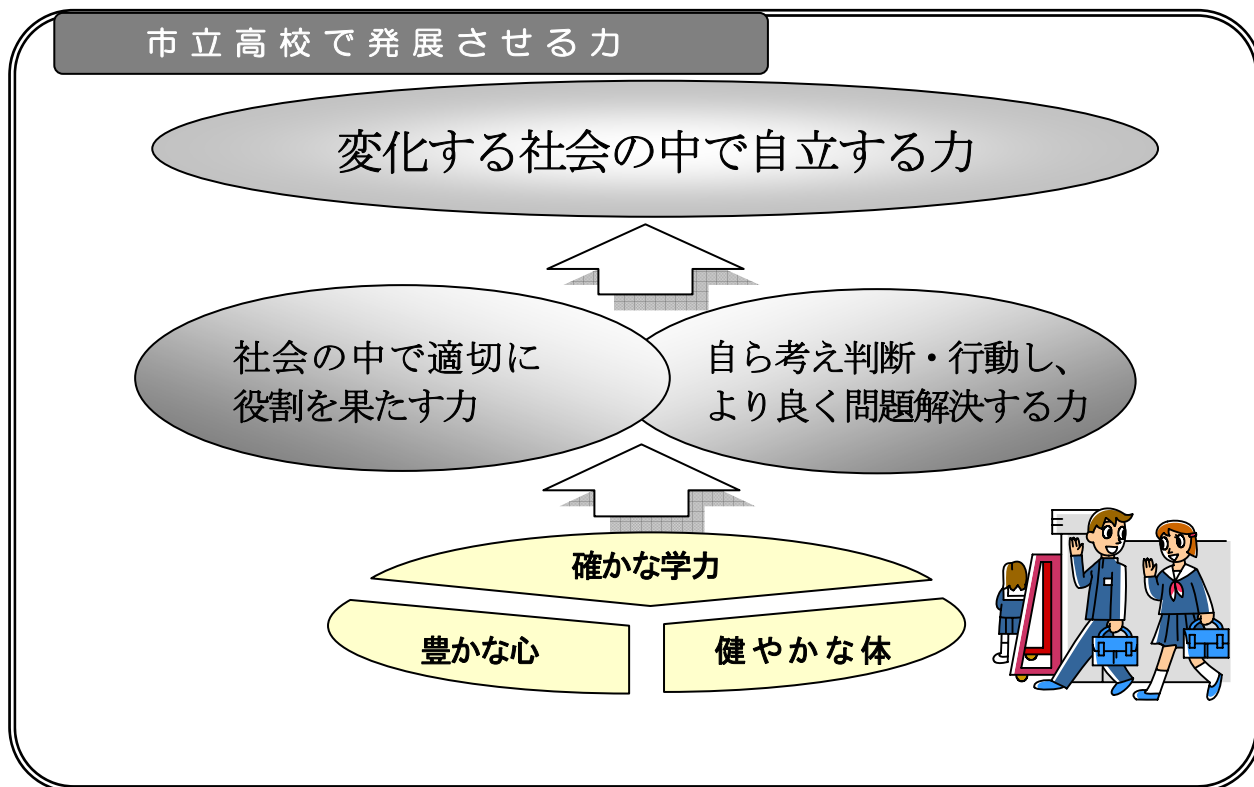


〈授業内容に関する要望(横浜市立高校生へのアンケート(H16年度):上位4項目、複数回答)〉

- ・資格や検定の取得を可能に 34.3%
- ・特色ある選択科目を 30.5%
- ・進学に対応した授業内容を 29.1%
- ・基礎・基本の充実を 27.9%

第3章 横浜市立高校は変わります

I 横浜市立高校生を育てるための目標



義務教育の成果を基礎に、知徳体の基礎力をさらに拡充させながら、社会の中で役割を果たす力や問題解決の確かな力を身に付け、変化する社会の中で自立する力を育てます

「市民力・創造力」を兼ね備えた『市民』に向けて育つ“横浜の子ども”

3つの基本(知・徳・体)と2つの横浜らしさ(公・開)

【知】幅広い知識と教養

知

【徳】豊かな情操と道徳心

徳

【体】健やかな体

体

【公】公共心と社会参画意識

公



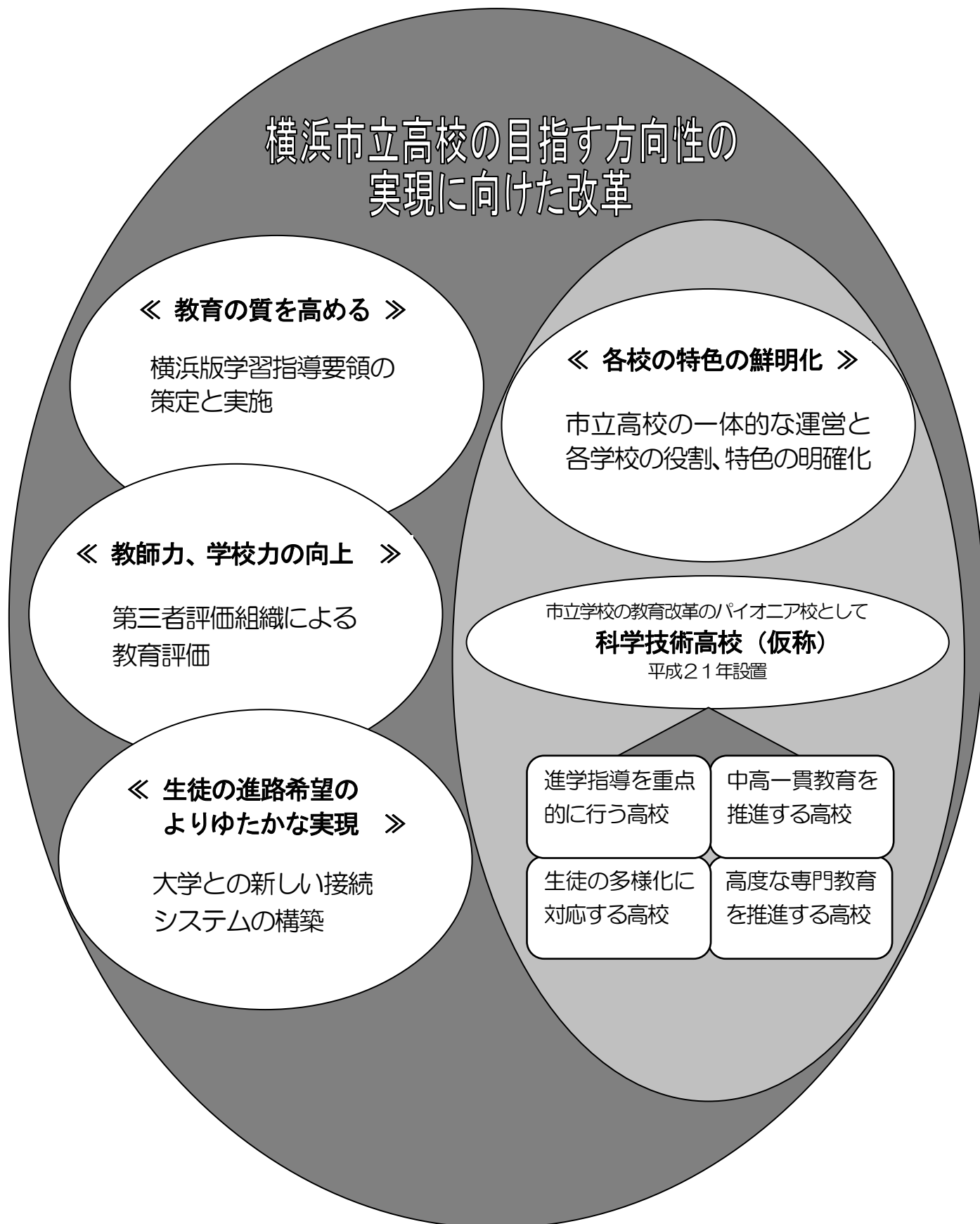
【開】国際社会に寄与する開かれた心

開

横浜教育ビジョン推進プログラム2頁より引用

II 横浜市立高校の目指す方向性

生徒の可能性を伸ばし、一人ひとりが個性と能力を発揮しながら社会の中で自立する力を育むため、9校10課程の市立高校全校が統一した方針のもとに教育の質をさらに高め、各校はそれぞれの学校の特色と魅力を発揮します。



Ⅲ 各高校の果たす使命

市立高校は日頃から充実した教育に向けて努力しています。生徒や保護者の満足度も高いものがありますが、より質の高い教育を目指し教育改革に取り組みます。

普通科

金沢高校

高いレベルでの自己実現を図る進学重点校を目指します

- 大学進学希望者がほぼ全員である状況を踏まえ、第一志望校への進路実現に向けてより進路指導の充実が望まれる。
 - 知識・理解重視の学習から思考・判断重視の学習への転換が求められている。
- ⇒
- 自ら学ぶ姿勢を育成し、学力水準の指標として大学入試センター試験7～8割を目指します。
 - 大学連携講座や地域の小中学校連携などの活動を充実させます。

桜丘高校

高い学力を育成し、一人ひとりの進路希望実現を目指します

- 大学進学希望者が多数を占める中、第一志望校への進路実現に向けての対策が求められている。
 - 部活動が盛んである一方、家庭学習を充実させる指導が望まれる。
- ⇒
- 進路指導・学習指導のさらなる充実により国公立大学をはじめ第一志望校の合格者を増やします。
 - 部活動とのバランスを取りながら、1年次から進路実現に向け、個に応じた指導を充実させます。

戸塚高校

国公立大へ進学しうる学力を育成します

- 大学進学が増えており、教育課程の見直しや授業改善が求められている。
 - 適切な進路実現に向けて、進路指導の充実が望まれる。
- ⇒
- 市内国公立総合大学の進学を重視し、それに対応しうる教育課程の見直しを図ります。
 - 実験・実習・体験を重視し、「学ぶ力」の育成を図ります。
 - キャリア指導の充実を図り、生徒の豊かな自己実現を支援します。

東
高
校

中高一貫教育の研究に取り組みます

- 推薦入試による進学が定着する一方、国公立大学の進学者が増えない。
- 地域や小・中学校からの期待感が大きく、生徒の資質能力を伸ばす指導が求められている。

- 中学・高校の学習の継続性を研究し、基礎・基本の確実な定着を図ります。
- ガイダンスと学習内容の充実によって希望する進路の実現を図ります。
- ボランティアをはじめ地域との連携事業を推進し、市民としての自覚を育てます。

南
高
校

高い学力を身につけた、将来のリーダーを育成します

- 生徒会、部活動などが活発である一方、学習への興味・関心を高める工夫が求められる。
- 進路実現に向けた授業力、指導力の改善を組織的に行うことが必要である。

- 教員を目指す生徒の支援のため「教育基礎」を設置します。
- 生徒会活動や部活動等の充実を図りリーダー性を養います。
- 授業評価に裏打ちされた授業改善を組織的・継続的に進めます。

戸
塚
高
校
定
時
制

きめ細やかな指導で基礎・基本の定着を図ります

- 学習面での支援や生活面での指導の充実が望まれる。
- 中途退学者の一層の減少を目指した指導が望まれる。
- 卒業後、進学や就職ができない生徒への指導の充実が望まれる。

- 教育課程の再検討と学習意欲を高める体験型の授業を実施します。
- ホームルーム指導や学校行事など、集団活動を通して自己実現を図ります。
- キャリア教育の充実と社会適応力の向上を図ります。

※ 平成 16 年度に策定した「横浜市立高等学校再編整備計画後期計画」で、「当面の間、志願状況の推移を見守りながら対応していく」としていた戸塚高校定時制については、引き続き検討してまいります。

みなと総合高校

魅力ある質の高い教育により希望する進路の実現を図ります

- 総合学科として職業観の育成や進路選択などキャリア教育の充実が望まれる。
- 生徒の自主的・自律的な学力形成に向けて選択科目の効果的設置が求められる。

- 学力伸長を図る選択科目や学校設定科目を充実し希望する進路を実現します。
- 生徒の多様性に対応したキャリアガイダンス機能を充実します。
- 国際社会の諸課題を学習し、国際社会に生きる力を育てるグローバル教育を推進します。

横浜総合高校

学力を伸長させ一人ひとりの進路実現を図ります

- 多様な生徒を抱える中で、一人ひとりの個性に応じた指導が求められている。
- 生徒や社会のニーズに対応した選択科目の設定が必要である。

- ねらいを持った科目設定と学力の伸長により生徒の進路実現を図ります。
- 生徒の指導カルテの整備やガイダンス機能の充実を図ります。

専門学科

科学技術校(仮)

高い志をもち、世界に貢献する人材を育成します

平成21年4月開校予定
<p.12~p.13参照>

鶴見工業高校

社会に役立つ力を育成し、生徒の希望する進路実現を目指します

平成21年度から新入生の募集は行いません。

横浜商業高校

高度なビジネス教育と国際人の育成を目指します

<ul style="list-style-type: none">●資格取得のための学習に加えて、普通教科の授業の一層の充実が望まれる。●資格を活用した進学者が増える中で、適切な希望進路の充実が望まれる。	⇒	<ul style="list-style-type: none">○商業科・国際学科とも普通教科の学習を充実させ学力向上を図り進路希望を実現します。○商業科では高度な資格取得、国際学科では英検取得や TOEIC などの高得点を目指します。○商業科、国際学科併置のメリットを生かし学校全体の教育を充実します。
--	---	--

別科

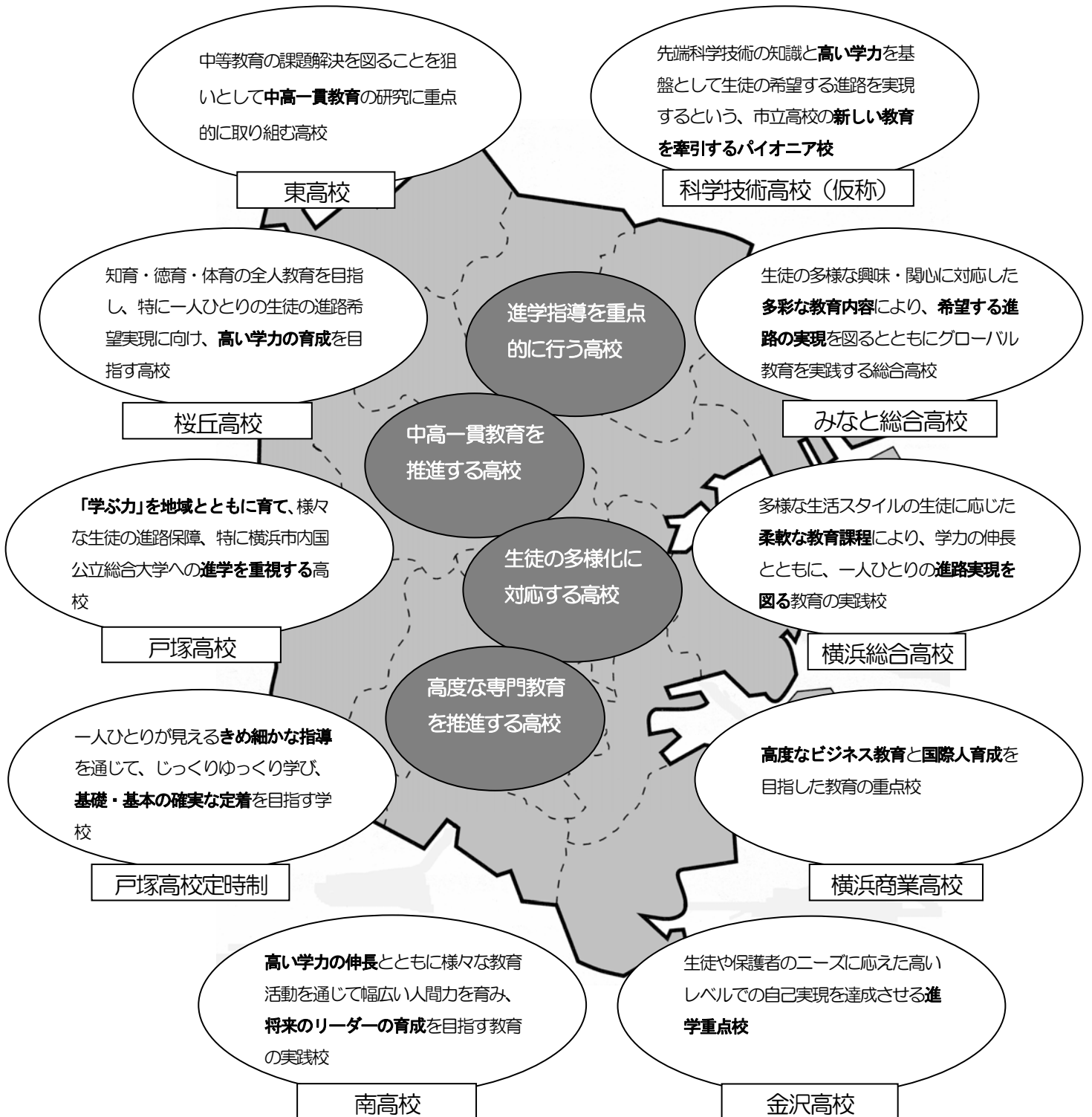
これからの理容・美容業界を担う職業人としての認識を深めさせ、技術と教養を備えた生徒を育成します。

※横浜商業高校別科は、理・美容師の養成を目的として職業教育を行う高等学校の別科として設置されている学校です。別科の修了者については特例措置として理・美容師試験の受験資格が認められています。

IV 各高校の今後5か年の学校目標(中期学校運営計画〔学校版マニフェスト〕から抜粋)

各高校はそれぞれの目標を持ちながら、市立高校の統合した目標の実現に向けて連携し、教育の質の向上に取り組みます。

“生徒一人ひとりの可能性の伸長・希望する進路の実現”



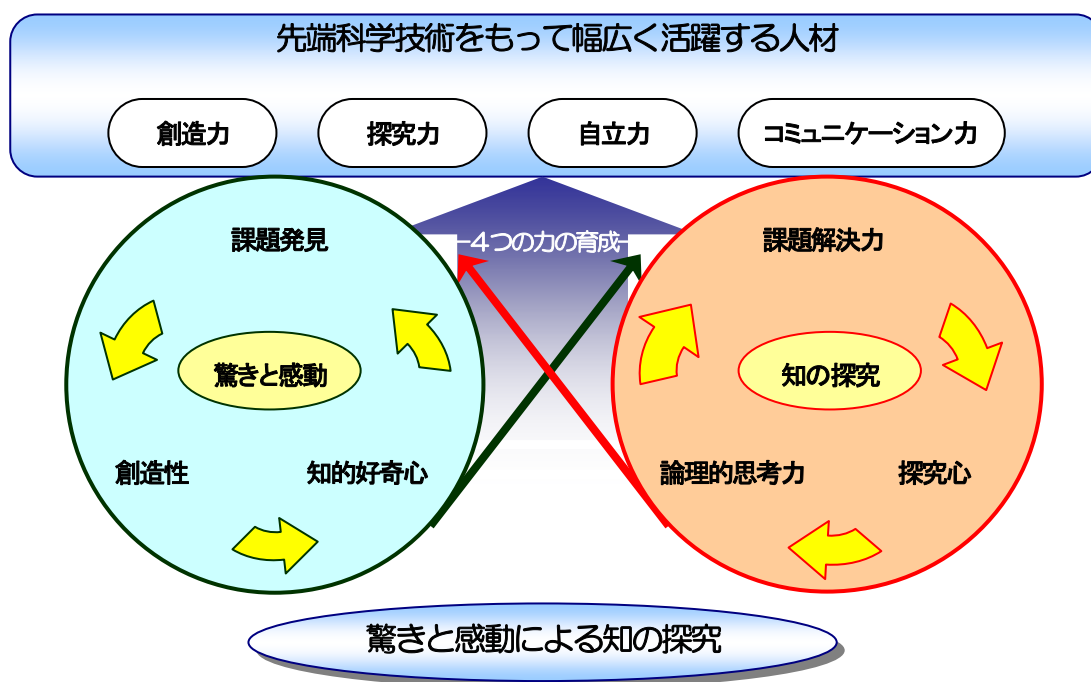
校名	取組目標
金沢高校	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒全員が第一志望校に進学するための指導の徹底を目指します ○学力向上の指標として、大学入試センター試験における7～8割の到達度を目指します ○3年間を見通した進路指導計画を充実させ、学力や進路意識等の変化を把握した個人面談をさらに重視していきます ○進路実現のための意欲・関心を育成する活動として、高大連携・小中高連携などを充実します
桜丘高校	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が希望する進路実現を図るため、各年次のガイダンスや進路指導を一層充実させるとともに、1年次からの家庭における学習習慣の確立を進めます ○一人ひとりの生徒の学力向上、学習意欲を喚起するため、学校評価や授業評価による授業改善を図ります ○知・徳・体の全人教育の一環として、学習活動とともに学校行事、生徒会活動、部活動、地域福祉やボランティア活動など自ら進んで取り組む生徒を育成します
戸塚高校	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の目標達成を支援するため教育課程を進路実現に係る目的指向型に再構築し、市内国公立総合大学への進学を重視します ○中学生理科実験教室や博学連携事業等、実験・実習・実地体験などを重視し、「学ぶ力」の育成と習得を図ります ○生徒の自己実現を支援するために、一貫したキャリアガイダンスを充実させます ○「戸高学び塾」を発展させ、特別講義、補習、在校生・卒業生の受験指導、地域・保護者向け講座を実現させます
東高校	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校の学習内容との継続性に配慮した学習指導を進めることによって、学力向上を図ります ○職業体験などを活用し、キャリア教育の充実を図ります ○小・中学校、自治会・町内会、区役所など地域と連携したボランティア体験によって、社会性を育てます
南高校	<ul style="list-style-type: none"> ○教員を目指す生徒への支援のため、学校設定教科として教育基礎（2単位）を設置し、大学との連携を図ります ○リーダーとして必要な資質を養うため、小・中学校への訪問、生徒会活動、部活動などの充実を図ります ○豊かな感性、バランスのとれた人間を育むため、北海道修学旅行でのファームステイ（酪農体験）の定着を図ります
戸塚高校校定時制	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導や相談に力を入れ、安心・安全で楽しい学校づくりを目指します ○少人数、習熟度別指導やティームティーチングによるきめ細かな学習指導を実施し、基礎・基本の確実な定着を図ります ○職業観の育成、進路適性把握、進路相談などを通じ、出口の見える進路指導を目指し、4年間の体系化したキャリアガイダンスを推進します
みなと総合高校	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員で生徒一人ひとりの進路実現をきめ細やかに支援するチューター制を導入します ○教科や特別活動を通じて、地球規模の諸問題についての横断的、実践的な学習を推進します ○生徒の進路や興味・関心に応じた商業、情報、福祉、心理学等多様な選択科目を設定します ○コミュニケーション能力の向上を図るとともに、留学生の受け入れなど国際交流事業を推進します
横浜総合高校	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの生徒理解に基づいて学習指導を充実させます ○自己理解と目的意識を持った学びを進めるよう、進路の支援プログラムの推進と指導体制の拡充を図ります ○生徒が安心して学べるよう、カウンセリングや相談体制の充実を図り、生徒理解を深めます
横浜商業高校	<ul style="list-style-type: none"> ○スペシャリストの育成として、日商簿記検定1級、システムアドミニストレーター、英検上級など高度な資格が取得できる指導体制を充実させます ○横浜学生会議の主催、UNIS（国連国際学校）への参加等を通じて、学習型国際交流を目指します ○専門学科の特色をいかしながら、普通教科の学力向上を目指します ○総合的な学習の時間をより一層充実させ、キャリア教育を推進します
鶴見工業高校 ※21年度より募集停止	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な学力の定着及び、第一種・第二種電気工事士・危険物取扱者などの各種資格取得や検定試験の合格状況の向上への取組を通して、生徒一人ひとりの進路希望の100%の実現を目指します ○生徒が意欲をもって学習に取り組むことができるように、授業内容・方法のより一層の工夫を目指して、19年度から校内研究会を立ち上げ、20年度には公開研究会を実施するなど、校内研究の活性化に取り組みます ○中期学校運営計画と連動させた学校評価を平成18年度から実施するとともに、平成19年度からは授業評価を実施し、授業のより一層の改善を図ります

V 科学技術高等学校（仮称）の整備推進

＜平成21年4月開校予定＞

生徒一人ひとりに探究力と創造力に裏打ちされた高い学力を育むとともに、自らの未来を切り拓く自立力と世界で活躍できるコミュニケーション力を身につけた人材を育成します。大学や企業の研究機関などと連携し、新たな教育の実践に取り組み全ての市立学校における教育改革のパイオニア校を目指します。

■ 科学技術高校（仮称）で育成する生徒像、身につける力



■ 学校の概要

所在地	横浜市鶴見区小野町6番地	施設概要	鉄筋コンクリート造、地上5階
課程・学科	全日制・単位制による専門学科	通学区域	市内を中心に一部広域を含む
生徒数	募集定員 240名（1学年）	入学者選抜	独自の入学者選抜を実施

■ 完成予想図



全体



正門付近

■ 大学・企業との連携

優れた功績を有する方々にスーパーアドバイザーや技術顧問として参画いただき、教育内容や施設・設備のあり方について指導助言を受けるとともに、技術顧問と連携した講座等も開講します。

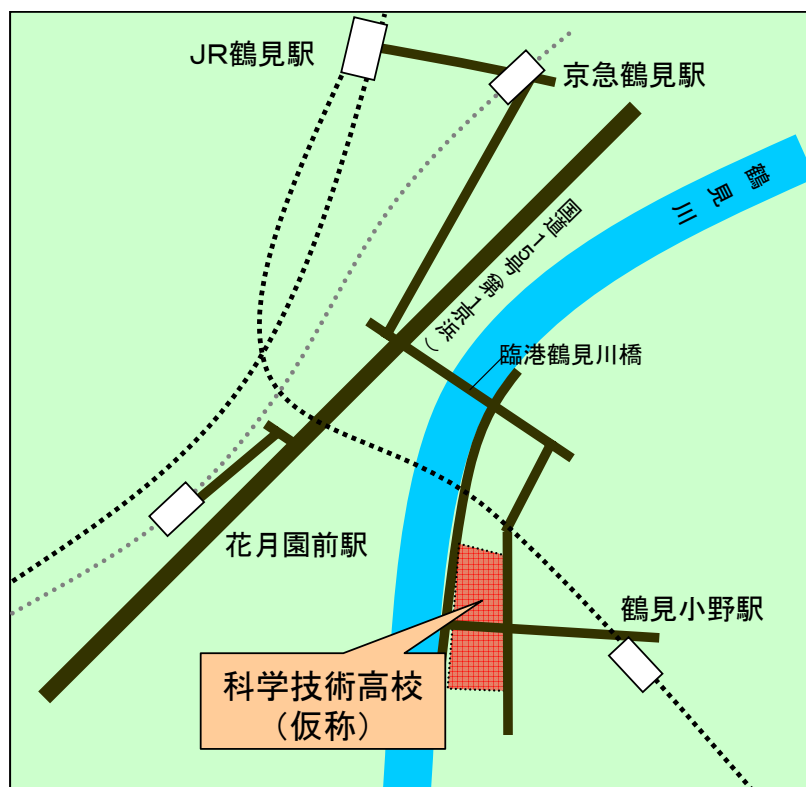
◆スーパーアドバイザー

小柴昌俊	平成基礎科学財団理事長、ノーベル物理学賞受賞者（2002年）、東大名誉教授
有馬朗人	日本科学技術振興財団会長、元東大総長、元文部大臣
和田昭允	横浜こども科学館館長、理化学研究所横浜研究所ガム科学総合研究所特別顧問、東大名誉教授
ハロルド・クロー	フロリダ州立大学教授、ノーベル化学賞受賞者（1996年）、横浜市立大学名誉博士

◆技術顧問

大学	慶應義塾大学（末松誠教授、富田勝教授、柳川弘志教授）、東京工業大学（伊東利哉教授）、東京大学（大島まり教授、岡秀夫教授）、武蔵工業大学（沼田潤教授）、横浜国立大学（但馬文昭教授、種田保穂教授、森下信教授）、横浜市立大学（窪田吉信教授、小島謙一教授、五嶋良郎教授、滝田祥子準教授、西村善文教授） 計15名
企業	旭硝子、味の素、石川島播磨重工業、エッチ・ディー・ラボ、扇島パワー、京三製作所、麒麟ビール、島津製作所、新日本石油精製、新横浜ITクラスター交流会、JFEエンジニアリング、月島機械、鶴見精機、TNパートナーズ、東京ガス、東京電力、東芝、日産自動車、NTT、日本ビクター、パナソニックモバイルコミュニケーションズ、日立製作所、ファンケル、ユーディット 計24社

■ 学校の場合



JR線「鶴見小野駅」下車徒歩 約3分	京急線「花園前駅」下車徒歩 約15分
「鶴見駅」下車徒歩 約17分	「京急鶴見駅」下車徒歩 約15分

第4章 横浜市立高校全体が取り組む目標

横浜市立高校の統合した目標の実現に向け、全市立高校が有機的に連携した運営を行い、教育の質を高める新たな取組を推進します。

目標1 << 教育の質を高める >>

社会人・家庭人としての責任感や倫理観を持ち、自ら考え、判断・行動し、よりよく問題解決を図る力を身につけます

横浜版学習指導要領の策定と展開

目標2 << 教師力、学校力の向上 >>

第三者による授業評価や学校経営評価により、継続的な授業改善や学校運営の質の向上を図る仕組みづくりを行います

第三者評価組織による教育評価

目標3 << 生徒の進路希望のよりゆたかな実現 >>

学びの目標を明確にし、目標水準への到達により大学へ接続するシステムをつくるなどして、生徒の進路実現を支援します

大学との新しい接続システムの構築

目標4 << 各校の特色の鮮明化 >>

市立高校全校の統一した目標に取り組むとともに、各校は学校の役割や目標を明確にして、個々の生徒の可能性を伸長する質の高い教育を目指します

市立高校の一体的な運営と各学校の役割、特色の明確化

18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	横浜版学習指導要領の策定			実施
		市立高校共通の学習内容の検討		
		統一基準による学力測定の開発・実施		
	第三者評価組織の設置	全校共通の授業評価、学校評価の実施		
		市立高校版学校提案型の予算配当制度の実施		
大学との協定締結	高校・大学連携による教育のあり方検討（研究会設置）			
	入学前講座など大学との連携講座の実施			
	統一基準による学力測定の開発・実施（再掲）			
	新たな接続システム導入			
市立高校共通講座の実施				
		市立高校間の柔軟な生徒異動の検討・実施		
		市立高校の独自入試の実施		
		科学技術高校（仮称）の設置		

第5章 目標を実現するための具体的方策

I 横浜市立高校版学習指導要領の策定

義務教育から培ってきた力を継続的に指導するとともに、各高校では個々の生徒の可能性を伸ばし、卒業後に必要とされる力を身につける教育を行うため、横浜市立高校版学習指導要領を策定・実施します。

事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
横浜市立高校版学習指導要領の策定及び授業改革の推進 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 新規 </div>	質の高い教育を実現するために、生徒に身につけさせる力を明確にし、その育成に向けた実践を充実させることを目指して、横浜市立高校版学習指導要領を策定します。 また、それに伴い各学校の授業改善を図ることをねらいとして、指導計画・評価計画を改善するとともに、授業評価の規準を明確にします。	横浜市立高校版学習指導要領総則の策定		各教科等編の策定 指導資料の作成		実施
				統一基準による学力測定の開発・実施		
		学力向上推進校、進学重点校などの指定		検証、評価成果の発信		
		国際交流推進校の指定		ガイドラインの策定・実施		
			指導計画・評価計画の改善	検証、評価規準の明確化		
	事業の主な担い手	高等学校・事務局				
	22年度末までの目標	横浜市立高校版学習指導要領の策定・実施				

II 横浜市立高校の一体的な運営の推進

全校が統一的な方針のもとに市立高校全体としての目標の実現を果たしながら、各校はそれぞれの特色を発揮することができる仕組みをつくり、市立高校が有機的に連携した運営を推進します。

事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
横浜市立高校の一体的な運営 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 新規 </div>	横浜市立高校の目標を明確にし、全校が連携しながら各校は特色、個性を発揮するために、横浜市立高校を指導、支援、評価する外部有識者等による第三者評価組織を設置します。	一体的な運営のための組織、機能、権限等の検討	組織設置	一体的な運営の推進		
				全校共通の授業評価、学校評価の実施		
				市立高校版学校提案型の予算配当制度の実施		
	事業の主な担い手	外部有識者等・高等学校・事務局				
	22年度末までの目標	横浜市立高校の一体的運営のための組織設置・実施				

Ⅲ 大学等との連携・接続の強化

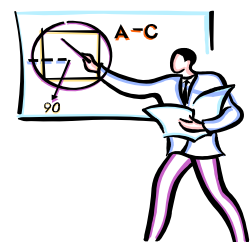
市内の大学と連携し、高校・大学を通じたカリキュラムの研究や入学前講座等の事業を通じ、新たな接続の仕組づくりを進めます。

事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
市内の大学や専修学校との連携による講座の充実及び新たな大学への入学の仕組の構築 拡充	市内の大学と連携を強化し、入学前講座や双方向の講座を充実させます。また、大学との協働によるカリキュラム研究を進め、市立高校生が身につけるべき力の保証を行うことによる新たな大学への入学の仕組を構築します。 市内の専修学校と連携を強化し、キャリア教育の充実に向けたカリキュラム開発を協働で推進します。	慶應義塾大学、横浜国立大学、横浜市立大学等との協定締結	高校・大学連携による教育のあり方検討（研究会設置） 入学前講座など大学との連携講座の実施		新たな入学システムの開発・実施	
		専修学校との協働カリキュラム開発	実施	検証、評価、改善		
		事業の主な担い手 22年度末までの目標	市内大学・市内専修学校・高等学校・事務局 大学への新たな連携・接続制度の創設			

Ⅳ 教育ネットワークの強化

異校種間や市立高校同士のネットワークを強化するとともに、地域の企業や研究機関などと連携して体験的な学習等に取り組みます。

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
1	横浜市立小学校・中学校との連携による教育の推進と入学者選抜の改善 継続	横浜市立小・中学校との連携による、キャリア教育や語学力育成などのカリキュラム開発、公開講座、教職員の交流による教育研究などを推進します。 また、中学校と連携して横浜市立高校の入学者選抜の在り方を検討します。	小・中学校との連携によるカリキュラム開発	検証、評価、改善			
			市立高校入学者選抜改善の検討	一部実施			
			事業の主な担い手 22年度末までの目標	小学校・中学校・高等学校・事務局 横浜市立小学校・中学校との連携カリキュラムの開発			



No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度					
2	市立高校間のネットワークづくりの推進 拡充	各市立高校で行う特色ある科目を他の市立高校生が受講できるようにしたり、長期休業や土曜日などを活用した共通講座の開講などの仕組みをつくり、ネットワークを強化します。 また、市立高校教職員による教育研究・授業研究を組織的、継続的に実施できるような仕組みをつくります。	ネットワークづくりに向けた調査、研究	連携講座、共通講座、共同行事等の実施	教職員の教育研究・授業研究の推進	市立高校間の柔軟な生徒異動の検討・実施						
							事業の主な担い手	高等学校・事務局				
							22年度末までの目標	横浜市内立高校の共通講座の実施				

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度					
3	地域や企業等との連携の推進 継続	地域、企業、行政、家庭等との連携による教育を推進します。 また、学校のもつさまざまな資源を活用した地域への貢献を具体的に検討します。	地域、企業、行政、家庭等との連携の在り方について検討	連携事業の実施	検証、評価、改善	市立高校全校による事業展開						
							事業の主な担い手	市内企業等・高等学校・事務局				
							22年度末までの目標	地域の企業等との連携事業の実施				



V 学校運営の改革

情報の適切な公開を行うとともに、横浜市立高校としての統一的な学校評価の仕組みづくり、市民に開かれ信頼される学校を目指します。

また、学校長のリーダーシップのもと教職員がチーム力を発揮して特色ある学校づくりを進めていくため、学校運営の機能性、組織性を高める仕組みづくりを推進します。

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
1	透明性の高い学校経営の推進と学校評価・授業評価の一層の推進 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;"> 拡充 </div>	生徒や保護者に信頼される教育を実現するために、学校情報の適切な公開をより一層推進します。 また、生徒、保護者、教員、第三者による授業評価を進め、授業の質の向上を図ります。 また、全ての学校で、P→D→C→Aのマネジメントサイクルを有効に機能させた学校経営を進めます。	中期学校運営計画の策定	検証、評価、改善				
		全校共通の授業評価、学校評価の実施						
		事業の主な担い手		高等学校・事務局・市立高校生徒				
22年度末までの目標		横浜市立高校の統一的な学校評価の実施						

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
2	質の高い教育を実現するための学校運営の改革 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;"> 新規 </div>	校長がリーダーシップを発揮するとともに、教職員が目標を共有し、意欲をもって教育に携わることができるよう、学校の組織、機能などの改革を進めます。	中期学校運営計画の策定	組織マネジメント力向上の推進 (校内組織改編の検討)				
		副校長の職務整理・配置のあり方検討・調整						
		管理職補佐職の新設などの検討・調整						
事業の主な担い手		高等学校・事務局						
22年度末までの目標		学校組織、機能の改善						



VI 学校支援体制の拡充

教育委員会は、人材育成や施設設備の整備を計画的に進めるとともに、様々な制度改善等について検討を行い、市立高校を支援します。

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
1	横浜市立高校の教職員の資質の向上（科学技術高校（仮称）開校に向けた人材の育成・確保） 新規	高校の教員に求められる専門的な力量と指導力、生徒を理解する力を身につけるための養成、採用、異動、研修制度とともに、意欲・能力・実績に基づく給与制度について検討、実施します。	高校の特質を活かす養成、採用、異動、研修制度の検討				▶	
			大学、大学院等と連携した教員養成、研修制度の検討、実施					▶
			給与制度の見直し検討、実施					
事業の主な担い手		市内大学等・事務局						
22年度末までの目標		高校の特質を活かす養成、採用、異動、研修制度の検討						

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
2	計画的な施設・設備の整備 継続	生徒の安全を確保し教育環境を整えとともに学校運営の組織性や機能性を高める施設・設備の整備を計画的に進めるための検討を行います。	計画的な施設・設備の整備の検討				▶
			科学技術高校（仮称）設計・建設工事	開校		▶	
			事務局				
22年度末までの目標		計画的な施設・設備の整備の検討・実施					

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
3	学校の特色を高めるための高校ならではの学校ファンドの設立 新規	学校が主体性をもって、高校における専門性、多様性に対応した教育を行い、学校の特色化を推進するための、高校ならではの学校ファンドを設置します。	在り方、仕組み等の検討	試行・評価・検証		▶	
			推進				▶
			高等学校・事務局				
22年度末までの目標		学校ファンドの設立					

No.	事業名	事業目的・内容	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4	新たな授業料制度と奨学金制度の検討 新規	受益者負担の視点をもった授業料制度の検討と、これに伴い必要となる横浜市立高校に学ぶ生徒の学業奨励のための奨学金制度のあり方について検討を行います。	授業料制度、奨学金制度の方針検討				▶
			一部実施				
			事務局				
22年度末までの目標		授業料制度、奨学金制度の検討・実施					

【参考】

＜ 横浜市立高校の概要 ＞

学 科 等	学 校 名	学 校 規 模			創 立 年 等	
		男	女	計		
普通科	金沢高等学校	401	432	833	昭和 26 年	
普通科	桜丘高等学校	356	474	830	大正 15 年	
普通科	戸塚高等学校	327	506	833	昭和 3 年	
普通科	東高等学校	325	367	692	昭和 38 年	
普通科	南高等学校	440	508	948	昭和 29 年	
普通科〔定時制〕	戸塚高等学校〔定時制〕	253	227	480	昭和 23 年	
総合学科	みなと総合高等学校	142	571	713	平成 14 年	
総合学科〔三部制〕	横浜総合高等学校	440	512	952	平成 14 年	
専 門 学 科	(学科名未定)	科学技術高等学校(仮称)			720(予定)	平成 21 年(予定)
	工業科	鶴見工業高等学校	675	29	704	昭和 11 年 ※21 年度より募集停止
	商業科・国際学科	横浜商業高等学校	304	531	835	明治 15 年
理容科・美容科〔別科〕	横浜商業高等学校〔別科〕	73	88	161	昭和 24 年	

平成 18 年 5 月 1 日現在

平成19年1月発行

横浜市教育委員会事務局高等学校教育課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電話 045(671)3743
FAX 045(640)1866

横浜市広報印刷登録
第183032号(A-090)

環境行動都市へ向け
ハマっ子が行動します！

ヨー コハマはG30

一生学ぼう 一緒に学ぼう ほくらの横浜で
横浜教育ビジョン